

日本文化政策学会主催

## 「文化財保護の歴史と政策」研究会開催案内

日本文化政策学会では、標記の研究会を下記により開催いたします。会員の方はもちろんのこと、会員以外の方でご関心ある方は奮って参加ください。

記

1.日時 2018年3月11日(日) 午後2時30分～5時

2.テーマ・発表者

【テーマ】 近代日本の〈文化〉政策—形成と特質

【発表者】 野呂田純一〔(公財) かながわ国際交流財団〕

【発表内容】 日本の文化政策の骨格形成は直接的には、明治中期にまで遡ることができる。その骨格は明治期のナショナリズムを背景としたことで、美術学校・博覧会・展覧会によって同時代美術の振興を行いながらも、国立博物館の設置と「日本美術史」の編纂を複雑に絡みさせた、古美術保護が主たるものとなった。その後、それは万国博覧会などに見られる対外的な日本表象に投影され、外国において現代まで続く日本イメージの再生産につながっている。

※発表者の野呂田純一氏は『幕末・明治の美意識と美術政策』(宮帯出版社 2015年5月)の著者です。

3.会場

法政大学大学院 2階 202教室 (所在地住所 東京都新宿区市谷田町2-15-2)

<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/campus/fichigaya/ichigaya.html>

4.参加費

会員および学生は無料。非会員は500円。

5.参加申込み

準備の都合もありますので、恐れ入りますが、参加される場合は3月4日(日)までに以下のメールアドレス宛てに氏名・所属・会員の有無をお知らせください。

[err-suda@jcom.zaq.ne.jp](mailto:err-suda@jcom.zaq.ne.jp) 須田英一 あて

6.懇親会

当日は研究会終了後に、有志で研究交流を兼ねて懇親会を開催したいと思います。こちらの会にも奮ってご参加ください。

7.研究会開催の趣旨

文化財政策は、近代以降の歴史的経緯の中で国—地方自治体というヒエラルキーのもとで確固たる制度に支えられて展開されてきている。だが、近年、文化財(文化遺産)は「まちづくり」の有効な資源としてもその活用が期待されている。このような状況下にある文化財に対し、歴史的な視点と現代的な課題を踏まえ、文化財の本質と今日的な政策や制度のあり方を探っていくことを目的とする。なお、本研究会では、今年度、継続的な研究発表会を約2ヶ月に1度のペースで開催していくことを予定している。

研究会担当者 馬場憲一(法政大学教授) 須田英一(法政大学講師)